

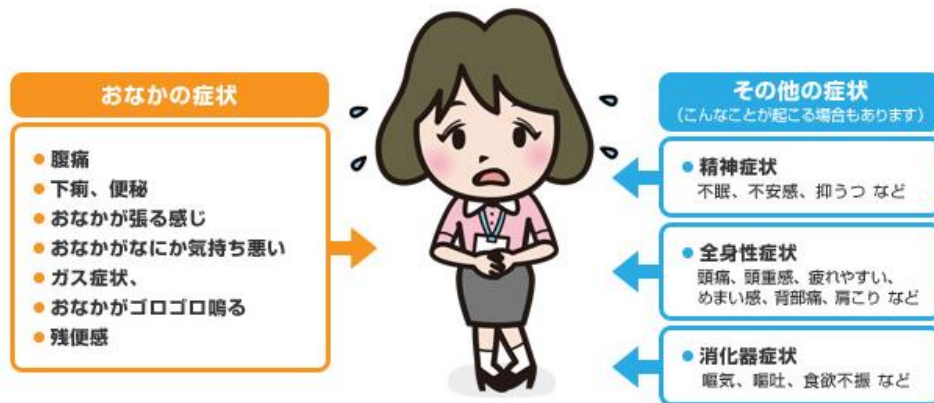
# かびんせいちょうしょうこうぐん 過敏性腸症候群

あまり聞きなれない病気の名前ですが、この病気をもっている患者さんは軽い症状も含めると意外に多い(日本人の5から10人に1人)です。

この病気は、ストレスによって慢性的な下痢や便秘、腹痛を繰り返します。具体的には、腹痛やお腹の張り、お腹がなんとなく気持ち悪い、お腹が鳴るといった腹部症状を認めます。多くの場合、軟らかい便や水様の便が数週間から数ヵ月続いたり、急に便秘傾向となり下剤を内服してもなかなか便秘が治まらないというような下痢と便秘を交互に繰り返します。お腹の症状は排便後に改善したり悪化したりします。

この病気は、腸だけの病気のように考えてしまいがちですが、実は少し違います。

この病気は脳と腸の病気なのです。腹痛などの痛み刺激や苦痛は神経を介して脳に信号が送られます。またストレスによって、脳から送られる腸の働きを調節する信号が障害され、腸の働きに影響します。脳と腸が密接に関わっている病気です。ストレスが強いと腹部症状や下痢、便秘が悪化します。また不眠や不安、うつ傾向なども発症することがあります。若い患者さんに多いとされますが、最近は高齢の患者さんも増えています。



(図)「IBS」に伴うおなかの症状・その他の症状

このような症状に当てはまる方も多いと思いますが、大切なことを忘れてはいけません。

症状が似ていても、①50歳以上、②排便時に出血を認める、③体重が減っている、④貧血が認められる、⑤夜寝ているときにも下痢を認める、⑥肝臓が触れる、など警告症状がある場合は、大腸がんや大腸疾患の可能性がります。そのため、大腸カメラで大腸がんやポリープがないか検査が必ず必要です。発見が遅れると大変なことになります。

治療は、食事療法や薬物療法、精神療法などがあります。症状の重症度、程度によって治療が異なります。

もしこの病気かな?とご心配であれば、かかりつけの先生や消化器内科の先生に一度ご相談してみても良いと思います。

<参考>

「IBS ネット」ホームページ <http://www.ibsnet.jp/>

(内科診療部長 飯田 智広)

